



## 北里大学同窓会 栃木県支部新年会2020

県南家畜保健衛生所  
牧 誉大、矢部 翠

今年もいよいよ残り少なくなり、心せわしい時期になりました。同窓生の皆様におかれましてはいかががお過ごしでしょうか。

さて、今年も新春の初顔合わせを兼ねまして、下記の通り新年会を開催いたします。大いに飲み語り合い、輝かしい新年のスタートを切りたく準備を進めております。

ご多忙中とは存じますが、今まで参加されたことがなかった方も、是非気軽にご参加ください。ささやかながらゲームも用意しております。

日時：2月15日(土)午後7時から

場所：チサンホテル宇都宮(さかな処 だいだい)  
宇都宮市駅前通り 3-2-3



会費：20歳代2000円、30歳代3000円、40歳から69歳5000円、70歳以上4000円

参加の申し込みは、同封のハガキで1月いっぱいまでにお知らせください。ご出席をお待ちいたしております。

## 北里大学同窓会栃木県支部 第六回定期総会

北里大学同窓会栃木県支部  
支部長 滝 龍雄

北里大学同窓会栃木県支部の第六回定期総会を以下のとおり開催します。ぜひご参加ください。

日時：2020年6月28日(日)午後

場所：検討中

- 議題：1. 活動報告・会計報告  
2. 活動計画・予算  
3. 会則の改定  
4. 次期役員を選任  
5. その他

講演会：総会終了後、北里大学学長(薬学部教授)伊藤智夫先生の講演会を行います。

懇親会：講演会終了後、伊藤先生を囲んで支部の懇親会を開催します。

会場選定も含め、詳細を目下検討中です。次号の北里大学同窓会栃木県支部ニュースでお知らせしますので、ご期待ください。

### お詫び

支部長 滝 龍雄

以前開催をお知らせしていましたが「福島競馬場観戦ツアー」ですが、都合により急遽中止となりました。このツアーは紅緑会栃木県支部との共催で、人気もあり、毎年多くの方が参加されていましたが、今回中止のお知らせがすべての会員に通知できませんでした。連絡漏れになりました方には心よりお詫び申し上げます。特に今回参加を予定されていた方みは落胆させてしまったことは申し訳ありませんでした。

今後、同様なことがありました場合に確実に全会員に連絡ための方法を、できるだけ早急に確立したいと思っています。

## 服部 幸先生公開講演会 大盛況で終了しました。

栃木県支部 支部長 滝 龍雄

7月7日ニューイタヤホテルで開催した東京猫医療センター院長の服部幸先生の公開講演会「ぼくは猫のお医者さん」は162名が参加し、同窓会本部からは岡田寛紀支部担当理事も青森より駆けつけてくれました。当初、講演会の出席者を100名程度と見込み会場を準備したのですが、約3週間前に朝日新聞の栃木欄に講演会の紹介が大きく載り、申し込みが殺到して急遽ホテルと交渉して60人多く収容できる会場に変えました。



(ご講演中の服部先生と、熱心に聞いている参加者です。)

ご講演の感想は3人の一般参加者にお願ひしましたので、それを読んでいただくとして、感想には触れていない、記憶に残ったことを幾つか書きます。



(講演会終了後、支部会員とともに記念撮影です。)

支部で作成した青いジャンパーを着ています。)

家庭内で飼育していると猫の寿命は伸びて、今までは13~14歳だったものが20歳くらいにまで長生きする猫もあるそうです。経済的にも20歳まで生きていたら300万円位かかるとのこと。ペットを飼育するには経済的ゆとりも必要のようですが、それ以前に自分の年齢を考え、飼育している猫よりも確実に長生きできるかどうかを考慮すると、飼いたくても飼えない人もいます。

猫に限らず、命を預かるということの大きな責任を痛感した講演会でした。

## 公開講演会「ぼくはネコのお医者さん」を 聴講して

大塚 美昭

2019年7月7日の七夕の日、岸支部長のご紹介により、東京猫医療センターの院長 服部 幸 先生による公開講演会「ぼくはネコのお医者さん」を聴講させて頂く機会を得ました。

私は、自分でネコやイヌなどの動物は今では飼っていませんが、小さい頃から動物は好きで、今回も、岸さんからお話を頂いた時から、是非、聴講させて頂きたいと思っていました。当日、講演会場となった宇都宮市のニューイタヤホテルの部屋は、いかにもネコ好きそうな「ネコを飼っている風」の中年女性を始めとする多くの聴講者でいっぱいになっていました。



(栃木県支部の岸副支部長の個展にて)

普通、「ネコのお医者さん」と言えば、誰でもいわゆるペットを対象とした動物病院を連想すると思いますが、私は、今回、初めて服部先生のおられるような「猫専門病院」というものがあることを知りました。先生は、数多くのスライドを交えながら、ネコ好きの人なら多分、たいていの人が、知っていると思われることや、これは、たとえ、ネコ好きであっても、おそらくは知らないのではないかと思われるようなことをいろいろとお話ししてくださいました。

昨今、飼育する人間の方の高齢化の影響か、散歩が必要なイヌより、これが不要なネコの数が増えたと言われます。その中でも、やはり、面白いなと感じたのは、そして、それは時にこれらを飼っている方の人間の違いにまで言及されたりするのですが、ネコという動物とイヌという動物の「性格」の違いに関してということでしょうか。良く、「イヌは人になつき、ネコは場所になつく」と言ったりしますが、イヌには、どこまでもヒトに従順

に従おうとする「無償の愛」を感じ、ネコにはどんなにヒトになついても、決して「ヒトの家来にはならないぞ」という「孤高のプライド」があるといったところでしょうか。そんなところも、きっとネコ好きの人たちにはたまらない魅力なのでしょう。先生も、「ネコは、イヌとは違って、人間がどんなに「芸や躰」を仕込んでも、はたまた、人間にとって困る「イタズラ」の類いも、自分がそれをやりたければやるし、やりたくなければ絶対にしない（それがネコのネコたる所以(?)。）」と仰っていました。だから、されて困るような（爪研ぎや障子破りなどの）「イタズラ」の類いには、人間の方が、それをされても困らないように対処するしか無いと。

講演の最後には、先生が会場の聴講者から幾つかの質問を受けてくださいましたが、やはり、病気に関するものが多かったようでした。やはり、「親」としては、愛する「子ども達」の病気が一番、心配なのでしょう。

講演を聴いて、最後に感じたのは（特に「イタズラの犯行現場」のスライドを見せていただいているときなど）、ご自身も、そのような「子ども達」の「親」であられる先生の「子ども達」への深い「愛」でした。

## 公開講演会「ぼくはネコのお医者さん」に参加して

船瀬 安子

去る7月7日（土）午後4時より、ニューイタヤホテル宇都宮にて開催された公開講演会「ぼくはネコのお医者さん」に参加しました。宇都宮市では初めてであり全国でも猫専門の獣医さんからお話を聞くことができる機会は貴重です。東京猫医療センター院長であり国内外で活躍する猫医療のエキスパートである服部幸先生をお招きしたこの講演に、猫ブームのご時世にこれ幸いと猫好きな約150名が会場に集まりました。

飼い主の永遠のテーマとして「猫の気持ちが知りたい」というものがあるため、この講演を通して何か一つでもヒントが欲しいと考える飼い主さんも多かったのではないのでしょうか。私も仕事から帰宅して愛猫の顔を見る度に「今日この仔は幸せだったのだろうか」と飼い主として家族としての不安を抱いていたので、この講演で沢山の知識を身につけて家庭に持ち帰ろう！という意気込みでこの講演に臨みました。

講演は、猫の体に隠された超能力のお話から始まり、猫の気持ちの読み取り方、重篤な病気のサイン、猫の張力はどのくらいなのか・・・等々、余談を交えた貴重なお話を聞くことができ帰宅後直ぐに実践できることが沢山ありました。

講演の中で「実はこうなのです」という語り口のもと先生が説明して下さったことに目から鱗が落ちてばかりで、最新の研究から引用されたものや猫の専門医としての先生の長年の研究に基づく経験談が新鮮でした。

例えば♪おさかな加えたドラ猫〜と歌われるような、小さな頃から身近にあった猫に関する知識や考え方には誤解のあるものやタブーなものも多くあるそうです。現状の先入観や古い知識に囚われたまま理解や勉強を怠ることが一番やってはいけないことだと感じ、日々新しい知識を更新し続ける大切さを学びました。それと同時に猫を人間の自分勝手に意のままに生活させようとしていることを恥じ、猫と接するにあたり人間と違う習性でいきているという理解が必要不可欠であることを改めて感じました。

人間と言葉が交わすことができず、他の動物と比べてもSOSを発することが苦手で我慢してしまうという猫。我が家の猫も病院でワクチン接種をしても声ひとつ上げずにじっと我慢してしまうので、猫は病気を隠す生き物という視点からいち早く異変のサインに気付いてあげたいと思います。しかし隠されたSOSを汲み取ることのできない私たちのような非専門家にとって、獣医さんは猫の代弁者として掛け替えのない存在です。これからはかかりつけの獣医さんとの付き合い方も一層考えなくてはと気を引き締めた時間でした。

国内で飼育されている猫は約970万頭と推定され犬の頭数を上回る猫ブームの昨今、獣医さんの中でも猫の専門家はまだまだ少ないそうです。このような中で公に素晴らしい先生を紹介して頂き、TV番組や書籍で先生のお名前を見かける度に積極的に手を取るようになりました。

講演後の質疑応答の時間では限られた時間内で5名の方限定であったので、猫が長生きするための予防医学をはじめとした、適切な栄養や歯と目の健康について詳しくお話を聞きたかった私は少し残念に思いました。まだまだ質問したいことや深めたいことが沢山ありますので第二弾の開催の機会がありましたら、また是非奮って参加させて頂きたいです。次回開催も期待しております。

また最後になりましたが、今回の講演会を企画、運営して下さった皆様に心より感謝申し上げます。これからの北里大学と猫の研究の益々の発展をお祈りしております。また、これから巣立っていく若い世代の獣医さんにも大変期待して優れた獣医さんが溢れる世の中を楽しみにしております。

とても有意義で素晴らしいひとときをありがとうございました。

## 公開講演会「ぼくはネコのお医者さん」に参加して

阿部 佳代

私は約10年前に初めて知人から猫を譲り受けて一緒に暮らす事になりました。子供の頃は犬を飼って見たかったのですが願いは叶わず、家の中で触れ合える動物と

暮らすのがずっと夢でしたが、大人になってからは命の重さとそれに伴う責任も感じておりました。それでもきっかけに貰い猫を飼うことにとってもワクワクしました。そしていざその猫が家に来た途端、それまで猫がいなかった生活が思い出せなくなるような存在感と共に、愛おしさを実感しました。生き物ってすごい、猫ってすごいなど感じました。それから5年後に同じ知人からやはり黒い子猫を、その2年後に通勤途中に地域で猫をお世話している方から「これ新入り」とヒョイと手渡されたチャトラ猫を貰い受け今の家族となりました。



(可愛いペットとともに)

それからは猫だけでなく様々な動物の事も気になるようになり、動物に関する講演会などにも出来る限り参加して知識を深めていきました。そしてこの度、猫専門のお医者さんの講演会があると聞きとても嬉しく楽しみにしていました。当日は30分以上前に会場に到着しましたが既に周囲は賑わいを見せていました。そんな中会場に入りますと、もう先生がいらっしゃるって講演会のご準備をされているではありませんか。これまで様々な講演会に出席しましたがこんなに早く来られていた講師の方は恐らく見た事がありませんでした。お若いのに真面目で謙虚な方なんだと感じました。そして先生は穏やかで優しい印象でした。講演は猫の歴史から始まり行動・病気の事など普段疑問に思っている事など分かり易く説明下さいました。特に「ごはんは海の中に住む魚より陸の上に住む鶏などの肉が良」とのお話があり、なるほどと思参考になりました。最後に質問出来るとは知らなかったため考えが纏まらず質問出来なかった事が悔やまれました。

次回は講演時間をもう少し長くして質問時間も増えると嬉しく思います。事前に質問を受け付けパネルディスカッション形式にしても良いと思います。本当に有意

義な講演会を有り難うございました。服部先生の講演第二弾を期待しております。

## 懇親会に参加して

鈴木 裕子

今回初めて、同窓会栃木県支部の公開講演会後の懇親会に参加してもらいました。というのは、今回の講演会のタイトルが「ぼくはネコのお医者さん」で、ペットの猫を飼っている私としては非常に興味をそそられ、日ごろの猫との付き合いの中で疑問に思っていること、よくわからない猫の行動の意味などを聞きたいと思ったからです。講演では服部先生の長年の臨床経験によるお話は、非常に適切で参考になりました。

講演会の後、待望の懇親会です。講演会では伺えなかったことを教わりたいと思い勇躍出席しました。



(懇親会後の記念撮影です。)

懇親会にはずっと30名位参加していましたが、ここでも服部先生は人気があり、質問したい人が列を作っていました。でも、私も幾つか質問ができ、嬉しくなって帰宅しました。服部先生ありがとうございました。

## Relay for Life 2019 in Tochigi 参加しました

チームリーダー 滝 龍雄  
サブリーダー 齋藤けさよ

去る2019年9月14日(土)12時から翌15日(日)12時まで、壬生町の壬生総合運動公園内陸上競技場とその周辺を会場として第8回の「Relay for Life 2019 in TOCHIGI」が宇都宮市・村井クリニック院長村井邦彦実行委員長のもと、開催された。

栃木県支部は2012年に宇都宮市内で開催された第一回から参加しています。大学本部や関連学部が栃木県内にはない唯一の大学です。今回はチーフリーダー以下延べ人数15名の方がリレーウォーク等に参加してくれました。



(支部テントの前を24時間ウォークの先頭が通ります。)



(栃木県支部の旗を持ち記念写真です。)

昨年2018年は全国では48地区でリレー・フォー・ライフが開催されました。この活動を通じて得られた寄付総額は1億3,608万円(昨年対比211万円増)で、イベント運営経費は7,474万円経費を差し引いた6,134万円が日本対がん協会に寄付されました。栃木地区では117万円強の寄付で、全国9番目に多い寄付だったようです。

## 支部長会報告

支部長 滝 龍雄



(支部長会の風景です。)

2019年度の支部長会は、新宿駅に近い小田急センチュリーサザンタワーの21階で開催されました。

今年は以前と少し趣向が変わり、グループディスカッションがなくなり、その代わりに5つの支部が代表してそれぞれの支部の活動を詳しく報告しました。栃木県支部もその一つに選ばれ、日常の活動状況や支部運営の特徴、そして公開講演会の開催報告をしました。当日は栃木県支部で作成したジャンパーを着用して参加しましたが、参加者には概ね好評でした。



(支部の青いジャンパーを着用し、支部の活動状況を報告。)

支部長会後の懇親会では、伊藤智夫学長に2020年の定期総会時のご講演のお願いをして承諾してもらい、気持ちよく他の支部長や同窓会役員の方々と意見交換をし、別の会合に向かいました。

## 支部新年会2019に参加して

磯 恵美子

平成31年2月16日(土)、自治医科大学附属病院の釜井聡子さんを始めとする幹事の皆様のお骨折りにより、支部新年会が催された。私は2年ぶりの参加となったが、今回も参加者20余名でビンゴゲームもあり、大変盛り上がりました。幹事の皆様、ありがとうございました。

さて今回は参加された同窓生の今井幸子先生が、平成25年秋の褒章では調停委員の功績で「藍綬褒章」、さらに平成30年秋の叙勲では調停委員の功労で「瑞宝双光章」を受章されたことが紹介されました。北里大学卒業生、先輩にこのような方がいらっしゃるは大変誇りに思うとともに永年の御活躍には本当に頭が下がります。

「調停」「調停委員」とは言葉では聞いたことはあっても、実際にどのような制度なのか、調停委員として日ごろどのように生活されているのか、どのように御活躍されているのか・・・、また御労苦も大変多いかと思えます。ぜひ、機会を設けて御講演いただき後輩を御指導願います。

今井幸子先生の今後の御健勝と御活躍を祈念します。

## 令和元年を迎えるにあたり

S56.3 卒 薬学部薬学科 磯 恵美子

令和元年まで10日となった(今日は4月20日です)。

いよいよ平成が幕を閉じる。平成31年3月31日、私は38年勤務した栃木県職員を(無事?)定年退職した。そして、平成31年4月1日、私は新元号発表を旅行会社開催の「さくらミステリーツアー」バスの中で観た。

退職して早々の4月1日に自分へのご褒美のつもり(?)で大好きな桜を愛でるツアーに申し込んだ。そして今月は自由人(無職)として過ごしているが、毎日の「時間と人に縛られない生活」は本当にとても「楽ちん」である。能天気でプラス思考の私だが…実は結構「重たい荷」を背負っていた、と実感した。そして、「私は仕事が好き!で働いて来たのではなく、皆(上司、同僚、後輩…等)と一緒に働くことが好きだった。」ことを実感した。

38年間で勤務した職場は7ヶ所(組織替えを含めると8ヶ所)だが、どの職場でも本当に「人」に恵まれた。振り返ると仕事で大変な失敗を起こして「ピンチ」になった時も職場のメンバーに助けられて解決できたことが沢山ある。不器用な私が38年間勤務できたのは出会った皆様のおかげと、感謝の気持ちで一杯である。

38年間、私は何かを成し遂げただろうか?自分の誇れる「功績」があるか考えてみたが、残念なことに「無」…むむむ…(かなり虚しい)。まあ、大病もせず元気に明るく38年間勤め上げたことを誇りにしよう、人との「縁」を功績と考えることにしよう。

いずれにしても私を「栃木県職員」にし(?)38年間勤め上げさせた(?)両親がすでにこの世になく、「良く頑張ったね!」と共に喜び、褒めてもらえないのが哀しい。

座右の銘ではないけれど、五日市剛先生の「ツキを呼ぶ魔法の言葉」である、「ツイてる、ありがとう、感謝します。」を唱えて本当にツイてる人生を送っている私だが今後も続けて行こうと思う。また、先日伯母の三回忌の法要が天台宗のお寺で営まれたが、今後(令和は)天台宗栃木教区布教師会による「四季のこころ」も大事にして生きて行きたいと思ったので参考までに紹介する。

(私は特に宗教論者でもなく天台宗という訳ではありません。)

四季のこころ

人に会う時は 春のような暖かい心で

仕事をする時は 夏のように情熱的な心で

物事を考える時は 秋のように澄んだ心で

自分をいましめる時は 冬のように厳しい心で

天台宗 栃木教区布教師会

(平成31年3月21日記)

## 国際医療福祉大学大学院 リハビリテーション学分野

前田眞治 (まえだ まさはる)

### 職業歴

1979年北里大学医学部卒業

1983年同大内科系大学院卒業

神奈川県立リハビリテーションセンター七沢病院

1985年同大医学部神経内科講師

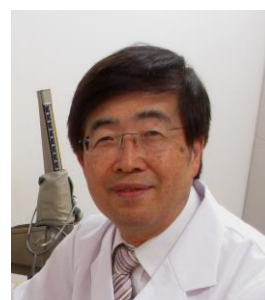
同大東病院リハビリテーション科科长

1991年同大医療衛生学部リハビリテーション学科助教授

2005年国際医療福祉大学大学院リハビリテーション学分野教授、現在に至る

### 自己紹介

三重県津市の榊原温泉の旅館に生まれ、小さいころから温泉とともに過ごしてきました。そのころから、温泉入浴した後のお客さんがにこやかに出てくるのを見て、温泉の科学的効果に魅せられ、温泉のことが研究したいと思



い医学部の門をたたいたというのが、医学部を志した理由です。医学部卒業後も温泉医学が研究したいと思ったのですが、日本には研究しているところが少なく、東京大学の物理療法医学(現在アレルギー膠原病医学)が研究をしているということで、物理療法医学出身の佐藤登志郎先生(のちの北里大学理事長)の門をたたき大学院に入学させていただきました。温泉医学を行っていたところはリハビリテーション医学の一部分であったので、リハビリテーション医学も学ばせていただきました。そのことで、北里大学東病院ができるときにリハビリテーションをお手伝いするようになり、リハビリテーションの診療科を立ち上げることも出来ました。1991年には医療衛生学部でのリハビリテーション学科の立ち上げにも協力しています。その間もずっと温泉医学の研究を行っています。2005年に国際医療福祉大学に移り、塩原温泉・那須温泉という日本屈指の温泉地に恵まれた環境の中で温泉医学とリハビリテーションの教育研究を行っています。

日本の温泉を支えるべく、2014年に改定された温泉の禁忌症・適応症・注意事項(温泉に行くと脱衣場などに掲げてある分析表)のまとめ役を行ったり、炭酸水の日本全国への普及などに貢献しています。

那須・塩原が近くにありますので、2つの温泉で温泉関連医学会や温泉科学会などを主催させていただきました。

リハビリテーションの臨床も研究も行いますが、会員の先生には「温泉博士」や「炭酸ドクター」としてなじみがあるかもしれません。今後ともよろしく願いいたします。